

研 究 結 果 報 告 書

所属 江蘇大学
役職 准教授
氏名 鹿 雪瑩

【研究テーマ】

日中国交正常化に関する史料の整理・翻訳と研究：日本外務省外交史料館所蔵の史料をもとに

【研究結果】

本研究は主に日本外務省外交史料館所蔵の史料を中心に関係史料を整理し、重要な史料を中国語に翻訳し、関連研究を行った。研究結果は次の通りである。

第一に、史料の整理と翻訳についてである。本研究は新中国成立後から日中国交正常化に至るまでの時期を中心に、日中国交正常化に関する外交史料館所蔵の史料を政治、外交、経済の幾分野に分けて整理し、中国語に翻訳し、中国語版の史料集として仕上げ、最終的に出版する予定である。整理した史料は、主として1991年以来公開された戦後外交記録、及び申請者が『情報公開法』に基づき請求した「開示文書」である。中国語の翻訳が完成したのは1959年から1967年までの史料であり、50万字に及んでいる。それから引き続き1968年から1972年までの史料を翻訳し、史料集として仕上げる予定である。

第二に、それらの史料を用いて、日中国交正常化プロセスにおける重要な研究課題を再発掘し、論文を発表することである。本研究に関する史料をもとに、日本の対中外交政策、日中民間貿易、中国の対日政策などの面から日中国交正常化のプロセスを研究することができる。以上のような視点から論文を二本書いたが、その中の一つは「大平正芳と日中国交正常化：古井喜実との関係を中心に」であり、日本の論文集に掲載されている。この論文は日中国交正常化における大平正芳の役割について、古井喜実との関係を中心に検討した。その結果、日本の対中国交正常化政策の制定と執行のプロセスは多元的であり、自民党内部の対中認識と政策に相違や軋轢があることは明らかにされた。もう一つの論文は「国交正常化前の中日貿易関連史料に関する整理と研究」であり、中国の雑誌に掲載される予定である。その論文により、日中国交正常化における野党、自民党内“親中派”、民間経済団体を含めた民間行為の役割がある程度明らかにされた。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表(題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

なし。

論文(題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

1、鹿雪瑩「大平正芳と日中国交正常化：古井喜実との関係を中心に」川島真、井上正也編著『大平正芳の中国・東アジア外交』株式会社PHPエディターズ・グループ(PHP出版)、2024年3月、235-271頁

2、鹿雪瑩，刘守军：《建交前中日贸易相关档案的整理与研究》档案学研究（公表予定）。

書籍(題名・著者名・出版社・発行時期等)

《日本馆藏中日邦交正常化资料集》（予定）（日本語『外交史料館所蔵中日国交正常化関係史料集』）